

障害者用グループホームの増設を。上越市立特別支援学校を新設して！ 市議会厚生常任委員会と市内障害者団体が懇談



害を持っている者の団体。いろいろ障害があっても、どうしたら社会参加できるか話し合っている。お願いする団体ということだけではなく、社会貢献する団体になっていきたい」とのべました。

懇談の中では、「頸北地区に障害者用グループホームをつくってもらいたいとお願ひしてきた。いま中古物件を探している。小さくても、自分たちで造ったというものをつくりたい」（Yさん）「医療的なケアが必要な人と言われても誰が該当しているのかわからない。災害など非常事態になつたとき個人情報というのでは困る」（Mさん）「精神障害者にとつて主治医がいるかいけないかは大きい。ある病院では前回かかった先生と今回の先生は違うという状況が続いている」（Yさん）「浦川原区の旧末広小学校の建物を活用して市立特別支援学校を設立してほしい。これは経済的負担だけでなく、通学上の時間的負担も軽減してもらいたいと思うからだ。市は『新たに（開校すること）を考えていない』との回答だが、上越

市議会厚生常任委員会と市内の障害者団体との懇談会が6日、市役所において行われました。懇談会には厚生常任委員の全員と上越市身体障害者連絡協議会、上越市手をつなぐ育成会など6団体の代表が参加しました。私は総務常任委員ですが、この懇談会が市民の暮らしを守るうえで大切な会の一つだと思ひ、傍聴してききました。

冒頭、挨拶に立った上越市中心身障害者福祉団体連合会の藤田こう至会長は、「私たちは広範囲の障

市の教育を県に任せておいていいのかという思いがある」（Fさん）などの声が出ました。

懇談会は貴重な情報交換の場であつただけでなく、今後の議会活動でも参考になることがいくつもありました。

ごみ分別区分の一部変更めぐり活発な質疑

上越市はこのほど、家庭ごみこれまで分別について、来年の4月から一部変更することを明らかにしました。変更の主たるところは、現在、「燃やせないごみ」として分別しているバケツなど「プ



【ハハコグサ】キク科の越年草。漢字で「母子草」と書きます。11月6日、尾神岳のパラグライダー着陸場付近で見つけました。冬を越して春に黄色い花を咲かせる花です。いま咲いているとはびっくりでした。

ラスチック製のごみ」や長靴などの「ゴム製品」を「燃やせるごみ」にすることです。6日の市議会厚生常任委員協議会で市当局は、その内容を説明し、質疑が行われました。

今回の変更はごみ焼却炉を新しくしたことによるものです。市の説明に対して、委員からは、「市民の多くは、プラスチック類はみんな『燃やせるごみ』扱いと思つている。（プラスチック製の容器包装はこれまでと同じく『資源ごみ』であることなどを）丁寧に周知するべきだ」「ごみ全体から見ると『燃やせるごみ』が多くなつている。『これは燃やせないごみです』という周知の方がいいのではないか」「冬期間、プラスチック製の資源ごみをストックさせている家庭が多い。資源ごみ回収ステーションに『プラスチック製容器包装』を回収するスペースを確保できないか」などの声が上がりました。

市では新年早々から小学校単位で市民説明会を開催し、2月の広報では、ごみ分別の区分変更の特集を組むなどして周知徹底したいとしています。



写真は頸城区百間町の資源ごみ回収ステーション

はしづめ法一の活動レポート

No.1832 2017.11.12
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第四八〇回 シーさんへの手紙

シーさんが亡くなってから、もう二か月も過ぎたんですね。今年の秋は雨ばかり降っていて、農家はたいへんでした。一月には急に総選挙もあったので、正直言う

と、シーさんのことを忘れていました。でも、この間の土曜日、自分の車を運転して、ふと、あなたを思い出ししました。いつものクセで、お宅へ行く道をちらっと見てね、そういうえば、シーさん

はもういないねがだと……。毎週土曜日になると、だいたい午前一時半頃、お宅に行っていたもんね。それが何十年も続いたんだもん、オレの目も、ハンドルを握る手も自然と動きます。無理もないですよ。オレの体がすっかり覚えて

るんです。お宅に行くと、シーさんは必ず厨房にいらしたんですね。オレを待っていてくれたのか、大瀧のマルキンさんを待っていたがだかわからんけど、よほどのことがない限り、そこにいて、「お茶飲んでいきな」と声をかけてくださった。とても感謝しています。

寄せせてもらってうれしかったのは、実の母親のように、いつもオレのことを心配してくんだったことです。「そこらじゅう回るがもいいいけど、ちゃんと寝ないや」「腹減ってねかね。これ食っていきな」こんな調子で励ましてもらいました。

いつ頃からでしたっけ、ストーブの上でサツマイモなどを焼くようになったのは。皮は焦げていたけど、サツマイモのままでよく焼けていて、じつにうまかった。「おやき」もそうでしたね。ストーブの上で焼いたのが最高でした。オレの好きなのは、野沢菜漬けか、味噌漬けが「おやき」の中に刻まれて入っているものでした。長年の付き合いで、シーさんはオレの性格や食べ

物の好みも承知でしたね。

もちろん、いただいた食べ物ほこれだけではありませんでした。いま頃だったら、大根とか里イモの煮物かな。味付けが抜群でした。それに、昔から親に叩き込まれたのでしようか、すぐった野菜など何でも美味しく調理して、出してくんなったね。それらの料理をデジカメで撮って、画像をあなたに見せると、「まあ、うんまあそうに撮れている」と喜んでくださいました。

お茶をご馳走になったとき、オレはスマートフォンでメモをとることがたびたびでした。だって、シーさんと話をしていて、もうすっかり使わなくなった言葉や面白い昔の話が次々と出てくるんだもん、記録しておかなくや損をします。

こうして記録したものは、お陰さまでその後、「やきもち」「雪椿」などというタイトルでエッセイにまとめることができました。エッセイに書いた翌週は、お茶飲み話がいっつも以上に盛り上がりましたね。

でもね、シーさん、あなたが残した言葉はまだまだ記録として残っているんです。「ばんたびだねかね、やだこてね」「おまんのチラシがくると、おらちでは、ばいっつらいになるがでね」「ねら、やべや」……本当は、もう少し話を聞いて、こういう言葉を入れたエッセイも書きたいと思っ

ていたんですけどね。残念です。シーさん、今年の冬は早く、妙高山はもう白くなりました。尾神岳はまだですけど、もうじきだと思えます。雪がいつべこ

「あの頃の青春コンサート」は大盛況

5日の午後、高田公園内にあるオーレプラザで開催された「あの頃の青春コンサート」を観てきました。主催はくびき野フォーク村の会場の大ホールは立ち見の人がでるほ

ど盛況でした。私はこのコンサートは2年ぶりの参加でした。もっとも、この日は地元で収穫祭があり、その準備をしなければならなかったもので、出場した20組のうち9組目までしか聴けま

せんでしたが。荒井由美の「あの日に帰りたい」を歌ったのは「星屑の田中くん」(写真上)のお父さん、お母さんは聴いておられたのでしょうか。懐かしい歌でした。柿崎の「Paff」が歌ったのは「五つの赤い風船」の「遠い空の彼方に」と喜納昌吉の「花」のこの二人、平和への思いを込めた歌が似合います。「あんず」のお二人は、私の大好きな中島みゆきの「この空を飛べたら」と「時代」、体全体で力強く歌ってくれました。「オレの歌を聴くまでは帰らないでよ」と声をかけてくれたのは、いつも三ハ市で新鮮な野菜を売っている「スワラエニ中



フレンド」(写真下)の諏訪ちゃんの柴田まゆみの「白いページの中に」を伸びのある声で歌いあげてくれました。たくさん撮った写真のうち、紙面の都合で2枚だけアップします。青春時代の歌を聞くと元気が出ますね。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと

	10月31日(火)	11月7日(火)
上越南消防署	0.043	0.040
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.047	0.043
頸北消防署	0.057	0.047
頸南消防署	0.060	0.050
東頸消防署	0.047	0.043
高士分遣所	0.043	0.040
名立分遣所	0.053	0.050